

夢・モモ・ゆう・機関車後援会だより

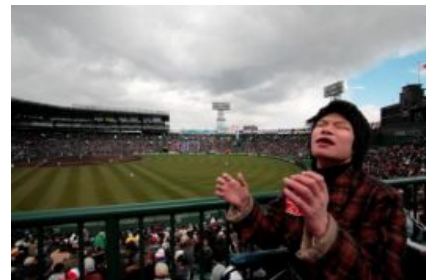
NO.22 2011年2月

写真「W・I・N・G」が受賞～MIO PHOTO AWARD2010

「NPO 法人 W・I・N・G - 路をはこぶ」の活動をとらえた組写真「W・I・N・G」が、ミオ写真奨励賞を受賞しました。撮影者は、ドイツ人スタッフのベアトラム・シラーです。

同賞は、関西初の本格的な写真公募展として1998年にスタート。今年は11の国や地域から359作品の応募があり、30名の作品が入賞しました。ベアトラムは09年4月から1年間、私たちの活動のあらゆる場面に密着してシャッターを切り続け、施設内での活動はもちろん、ヘルパー派遣の様子や旅行での利用者さんの表情やスタッフの支援を見事な視点で切り取ってくれました。

受賞作品展は2月5日～13日11:00～20:00、天王寺ミオ12階のミオホールで開催。3月1日～13日に天保山海岸通りギャラリーCASOで、その他の作品を含む展覧会を開催します。詳細は後日お知らせします！



「モモの家」グッドデザイン賞に輝く！

「デーセンターモモの家」のリサイクルショップが、2010年度グッドデザイン賞に輝きました。今年、アイドルグループ「AKB48」の受賞でも話題となった権威ある賞。今回は、公共・文化教育関連施設での受賞です。



この受賞を励みに、利用者さん、スタッフともにリサイクルショップ活動に今後とも力を入れていきます。

グッドデザイン賞のホームページは、<http://www.g-mark.org/index.html>

【審査員評】一見するとその外観からはこの建物がいったい何の施設なのか皆目わからない。実は天井の高い倉庫をリノベーションし、リサイクルショップを併設した、重症心身障害者デイサービス施設である。設計者は「社会から切り離され、庇護されているだけになりがちな重度障害者が社会とつながりを持つことができる施設をつくる事を課題とした。」という。なるほど社会の平等性を考えると何の建物かわかる必要はない。しかしながらファサード、インテリア、屋上緑化ともきちんと細やかなデザインが施されていることが、近隣との距離感を縮め、施設がさりげなく存在することを実現している。今後の同様の施設の良き模範となるだろう。

21世紀への航跡

～夢・モモ・ゆう・機関車の歩み 菅野眞弓

時間は残酷です。日常に流され、うっかりしていると大切なことを置き忘れたり、失くしたりしていることがあります。

2000年に多くの方々のご協力を得て、この後援会は立ち上がりました。10年が経過し2000年当時、“点”でしかなかった私たちの活動は、みなさまに支えられ、励まされ、点から“線”へと繋がった。と自負していますが…。はたして、みなさまに私たちの“今”が届いていますでしょうか？

*ワーキング・ホリデー制度...二国間の協定に基づき、1年間異なった文化の中で観光ビザ・留学ビザ・就労ビザとは違った滞在を可能とする特別な制度。滞在資金を補うために就労が認められ、これによって広い国際的視野を持った青年を育成し、相互理解、交流を促進することを目的としている。

後援会設立以降、さまざまに私たちは変化をしてきました。まず、法人格を取得。これは否が応でも私たちに“責任”の意味を問うてきました。答えは簡単にできませんが、点から線、線から面へと展開していくことも、その答えのひとつかもしれません。そして、今...

デーセンター夢飛行・モモの家・機関車には、常に外国人がスタッフとして利用者さんの傍にいます。このような状況は、後援会設立とほぼ同時期に起こりました。外国人スタッフの受け入れを始めた当初、それは韓国の青年ばかりでした。彼らは、ワーキング・ホリデー制度で来日した人たちでした。

ワーキング・ホリデーの外国人をスタッフとして受け入れることについては、若干の緊張はあったものの、受ける側、入る側、双方が若く柔軟であったこと、韓国は生活様式に大きな差がなかったことなど、スタートは順調だった。と私は思っています。もちろん、そこには、毎日顔をつき合わせ、時に不自由な言語の中で支援を行うのですから、双方に些細な苛立ちもあつたろうことは容易に推察できます。それでも10年間、滞ることなくワーホリスタッフがいる施設... 素敵だと思いませんか？

今、私たちという外国人スタッフはワーホリスタッフだけでなく、日本人と結婚した外国人もいます、そして韓国からスタートしたものがヨーロッパにまで広がっています。

2010年9月、8名の利用者さんがスタッフと共に、2泊3日の韓国ソウル旅行を実現させました。そして、そこには、日本で障害を持った人と関わり、たくさんの思い出を作って帰国した元ワーホリスタッフが待っていてくれました。10年前、5年前 まだ若くあどけなかった彼・彼女。父に、母になっても懐かしい再会でした。一時期短い時間、国は違えど志を同じくしたものの再会でした。

有朋自遠方來。不亦樂乎(朋有り遠方より來る。亦樂しからずや...)。(つづく)



ホームページがリニューアル！

ホームページが新たに生まれ変わりました。旧ページ作成時から福祉制度が大きく変わったこと、当時から活動範囲も大きく広がったことなどが理由です。タブを増やして、情報へのアクセス方法に工夫を凝らしました。本紙1面で紹介させていただいているベアトラム・シラー撮影の利用者さんの写真も随所に散りばめました。活動紹介にも力を入れています。ぜひ一度、インターネットで利用者さんの表情や活動をご覧ください。

<http://www.yourwing.org>



「介護現場の外国人労働者」(明石書店)

フィリピンやインドネシアの介護福祉士候補者の来日が話題となっています。少子高齢社会の到来に伴い、福祉現場を支える労働力不足が指摘され、外国人労働者への門戸開放の議論が盛んです。

福祉の現場での外国人労働者受け入れには、どのような課題があるのか。在日外国人スタッフが活躍する福祉現場のレポートを交えながら、論考したものです。

ワーキングホリデースタッフの受け入れを行っている私たちの施設も様々なエピソードとともに紹介されています。私たちスタッフの2割を占める外国人スタッフの活躍ぶりをぜひお読みください！アマゾンなどインターネット書店や一般・有名書店でどうぞ。3990円(税込)



マレーシアからの便り

マレー半島にあるパハン州にクアラリピスという人口 8 万 7 千人程度の小さな町があります。私は現在、このクアラリピスの福祉事務所で JICA 青年海外協力隊員として、障害者支援をしています。

マレーシアは多民族国家。国全体としては 6 割のマレー人、3 割の中華系、1 割のインド系とその他に先住民族の人々も住んでいます。クアラリピスも 3 大人種が住む町です。町と言っても中心部にスーパーがあって、商店があって、食べ物屋さんがある、その程度で、あとはヤシの木が生い茂る森がクアラリピスの大部分を占めています。

こちらの福祉事務所でも日本の福祉事務所と同じように、障害者、高齢者、児童、貧困層にある人々などへの支援を行っています。今は 12 月、雨季のため洪水がここ、そこで発生するため、洪水被災者への援助もこの事務所から行われています。

そんな中、私は障害者の部門で活動しています。障害者はマレー語で「OKU」と呼ばれています。これは「Orang Kurang Upaya (オラン・クラン・ウパヤ)」の略称で、日本語に直訳すると「能力の足りない人」となります。しかし、その言葉が真実をとらえているのか？大きな疑問ですよね。こちらでも、「この言葉は改定していくべきではないか。」という動きが大きくなっており、最近では「Orang Kelainan Upaya (オラン・クライナン・ウパヤ)」= 「能力の異なる人」の略であるとされるようになってきています。

私の活動の中心は、PDK と呼ばれる障害者の人々が集まるセンターに訪問し、アクティビティーや作業内容をセンタースタッフと一緒に考えたり、センター利用者の人々への個別の支援を進める。障害者の人々の自宅を訪問して、個別の支援を進める。ということです。



日本のように障害者福祉サービスは十分ではなく、PDK があるのと、障害者の人たちが受け取れる手当が少しばかりあるだけなので、彼らの社会参加は容易ではありません。特に私の活動しているような、森ばかりの田舎の方になると、家から出るのも一苦労。何をするのも「移動手段をどうするのか？」ということが、障害者の人たちが一方社会 出るための問題となっています。



浦井加奈 (JICA 青年海外協力隊。マレーシア・パハン州社会福祉局クアラリピス事務所 ソーシャルワーカー)



そんな中で私の活動はとっても微力。毎日自分にどんなことができるんだろう？と悩みつつの日々です。でも一人ずつ、一人ずつ、社会とのつながりを見つけられるように、と働きかけを行っています。



最近嬉しかったことは、一人の PDK 利用者がスーパーへ仕事に行くようになったこと。まだ試用段階のような感じですが、月曜から金曜日まで、スーパーに通い、商品に値段シールを張ったり、商品陳列をしたりしています。彼の名前は「Chong(チョン)」。今日も私がスーパーを訪問すると、ゆっくりですが、他のスーパースタッフに仕事を教えてもらいながら、商品の値段シール貼りをしていました。

「チョン、仕事できるようになった？」「Bolehlah~。(できるよ~。)昨日はストックのチェックもした。」うん、確かに前より慣れてきたのかな・・・。長く仕事ができるように頑張ろう！！

私の活動は 2012 年 6 月までですが、それまでにどれだけの人に「Boleh!(できるよ!)」と言ってもらえるか、まだまだこれからだなあ・・・！と思っています。

2009 年度決算～ありがとうございました～

収入		支出	09 年 4 月 1 日～10 年 3 月 31 日
会費	1689870	事務費(印刷費など)	54150
寄付	1596212		
預金利子	7607		
前期繰越	17368620	合計	54150
合計	20662309	収支差額	20608159

毎回多大なるご支援ありがとうございます。感謝申し上げます。

2009 年度は大きな支出を控えました。2010 年度も同様です。2012 年度は、3 つの大きなハード整備が待っているためです。

ご家族の高齢化に対応して、重症心身障害者が地域生活する「グループホーム・ケアホーム」を設けます。現在の 3 施設はいずれも通所施設。親の支援から離れ、地域で独立した生活を営むことのできるホームを設置し、親なき後の人生支援も行います。

また、「デーセンター夢飛行」「デーセンターモモの家」の利用者さんが増加していることに対応して、「新しい拠点づくり」を行います。さらに、手狭となった「デーセンター機関車」を移転・改修します。新拠点、移転・改修ともに急ぐ必要があります。このために後援会の資金援助をお願いする予定です。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

パレスチナの聾（ろう）学校

後援会の皆様、こんにちは。2010年4月からイスラエルで特派員として、パレスチナとの和平交渉などを取材しています。

× ×

パレスチナ自治区ガザ地区の「アトファルナろう学校」を11月末に訪れました。92年に設立された、ガザでただ一つの聴覚障害者向け学校です。4～5歳児が幼稚園に、1～9年生が小・中学校に、計約300人が通っています。アラビア語、算数・数学など通常の教科の他に手話などを学びます。

9歳のムハンマド君と会いました。ムハンマド君は数カ月前、人工内耳の手術を受け、音が聞こえるようになりましたが、声による会話はまだ難しいので、先生が手話で通訳して下さいました。「将来は先生になりたい。宗教の時間が好きです。スポーツならサッカーを見るのが好き」と答えたくち、片手の握り拳をもう片方の手の甲で“蹴る”仕草が「サッカー」だと理解できました。

手術は良いことばかりではありません。あるアラブ国の医者が無料で、大人や子供（生徒20人）も含めガザで約100人の聴覚障害者に人工内耳を埋めてくれました。しかし、本人のリハビリや人工内耳の調整など事後に世話する態勢を全く整えませんでした。音がいきなり聞こえても、「音」というものを理解できず、かえって混乱します。通常なら2年をかけて訓練するのだそうです。リハビリを担当する人材育成のためアトファルナは急遽、5人のスタッフをカタールに派遣することを決めました。

ムハンマド君は私の質問に、時に笑顔で、時にじっと考え込んで答えてくれました。簡単には分かりませんが、とまどっている1人がムハンマド君だそうです。「次は、ロバの音を聞いてみたい」と教えてくれましたが、ロバの大きな声を震動で感じたことがあり、「音を出す」と把握している数少ない事例を挙げたのだろうとの先生の説明でした。一方的な「善意」だけでは、生きた支援にならないと感じました。

他にも、ガザ特有の困難に子供たちは直面しています。08年12月～09年1月に、イスラエル軍がガザ地区に激しい空爆を加え、領内に侵攻しました。多くの子どもたちは自宅で待機しました。テレビで死体



花岡洋二（毎日新聞エルサレム特派員。最大の取材テーマはイスラエルとパレスチナの和平交渉）



を目撃し、実際に爆発の震動を感じ、親の強ばった顔を見続けましたが、周囲の出来事を正確に理解できませんでした。ストレスを抱え込み、心に傷を負いました。学校ではこうした子どもたちにも対処しています。



学校は大きく発展し、職業訓練部門と卒業生の工房も併設。手工芸品（木工、刺繍、編み物）は品質が高く、ガザの土産物として有名です。売上は運営費の約10～15%をまかなっています。同校は長年、日本のNPO法人「パレスチナ子どものキャンペーン」が支援しています。インターネットで日本語の情報も探してみてください。

ありがとうございます！

助成団体より多くの支援をいただきました。心より御礼申し上げます。

「赤い羽根共同募金会」様より
リフト付送迎車（トヨタ・ハイエース）購入に220万円いただきました。

「近畿アイスクリーム協会」様より
アイスクリーム200個いただきました。

「あゆみの箱」様
液晶テレビ32型を1台いただきました。

「西成区社協助成金」様
リラックステア1脚を購入しました。

「西成区遊技業組合『善意の箱』」様
リラックステア2脚を購入しました。

「大阪市中心卸売市場本場青果店」様
みかん3箱いただきました。

「福島区民生委員協議会“歳末たすけあい”」様
シャワーチェア、布団乾燥機、布団購入しました。



W・I・N・Gでの経験

こんにちは。マルティナです。

私は2010年3月からW.I.N.Gで働いていますが、ここに来たことを後悔したことは全くありません。日本に来て1週間でここでの仕事を見つけ、この仕事自分が向いているかどうか分からないまま働き始めたので、私にとっては色々なことがあったという間に過ぎていきました。しかし、日本人スタッフがとても親切で、アドバイスやサポートをしてくれたおかげで、すぐに仕事に慣れることができました。



10カ月間日本にいながら、私はまだ日本語がそんなに上手に話せません。日本語をあまり学べなかったことが、一番の心残りです。ただ、スタッフとコミュニケーションをとるのに、日本語は必ずしも必要ではありませんでした。英語が話せるスタッフもいますし、ほとんどの人が英語を理解してくれます。もしそれが無理でも、必要であれば身振り手振りでコミュニケーションをとることができました。それは、利用者さんとのコミュニケーションでも同じでした。利用者さんと仲良くなろうとすれば、日本語が話せなくても、なんとか関係を築くことができました。

この仕事は、すべての人に向いている訳ではないかもしれませんが。でも私の中では、すぐに偏見の気持ちはなくなり、すべての人が平等に見なされるべきだと思うようになりました。私の場合、すぐに利用者さんのことが好きになり、1年しか一緒にいられないことがとても残念でした。利用者さんと一緒に過ごすこの仕事は本当に面白いです。それぞれの利用者さんの好きなものや興味のあることについて知ったり、利用者さんと一緒にふざけたりすることで、利用者さんも楽しんでくれたと思います。

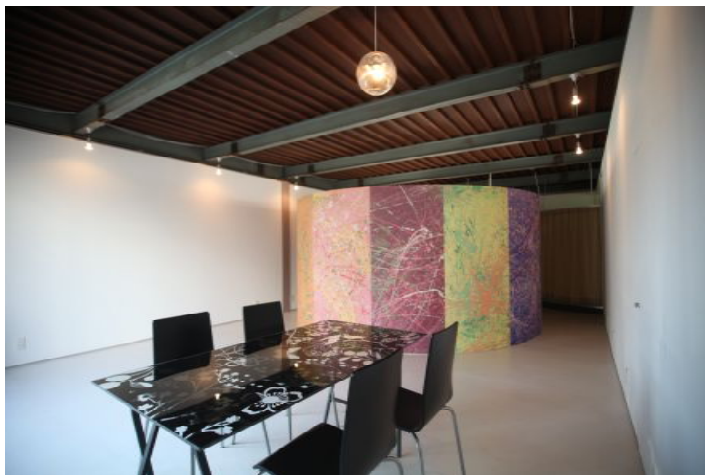
また、日本人か外国人かに関わらず、一緒に働くスタッフとも仲良くなることができました。それは、日本社会について知るという意味でとても良かったです。すべてがイメージしていた通りではありませんでしたが、とても貴重な体験でした。

もうすぐワーキングホリデービザが終わり、W.I.N.Gのスタッフでなくなることはとても寂しいですが、私はここで過ごした素晴らしい時間をずっと忘れません。(英文和訳：スタッフ・久保恵理子)

Martina・Juengling

1990年生。ドイツ・ミュンヘン出身。趣味はミステリー小説(日独米)と旅行。来日前はデザイナー志望だったが、日本での体験を経て、帰国後はソーシャルワーカーの学校を目指したいとのこと。

galerie “ 見る倉庫 ” オープン



利用者さんの絵画活動で作成したデザインを印象的に利用したギャラリーが西成に完成。オープンを記念した展覧会を開催しました。

左写真中央のカラフルなデザインは、利用者さんの作品です。円柱状になっており、中は、スタッフのロッカールームです。

イラストレーター・林やよいさんの原画展「そのままがいいよ」と、ベアトラム・シラーの写真展を相次いで開催しました。新聞でも紹介記事を掲載いただいたこともあり、遠方より訪ねてくださる方も多数。同時に販売した利用者さん作成の記念品（携帯ストラップやポストカードなど）も好評でした。

重症心身障害者の芸術活動の成果を発表する場として、また地域と私たちを結ぶ活動の拠点のひとつとして活用します。

一般の方々の作品展など発表の場としての利用が可能です。ご希望の方はぜひご一報ください。



協賛企業一覧 ~ 代金の2～3%が後援会に寄付されます。ぜひご利用ください！

旅行全般は「**ホープトラベルサービス**」

0721 - 56 - 2170 担当：石丸さん

住宅新築・改修は「**吉岡建設**」

0726 - 21 - 0021 担当：山本さん

リフト等の車両改造は「**ウェルビー**」

072 - 228 - 2501 担当：田中さん



初めての韓国へ

ついに海外旅行が実現しました。2010年9月4日～6日の2泊3日で、利用者さん8名が韓国・ソウルを旅行しました。旅の目的は、かつてのワーキングホリデースタッフとの再会です。



重症心身障害者の団体旅行に、大韓航空のクルーたちも少し戸惑った様子でしたが、機内食のカットもOK。乗り降りも予想していたよりスムーズでした。

“再会”の食事会には、私たちの活動を“卒業”した元韓国人スタッフが韓国全土から集まってくれました。既にパパやママになった元スタッフも多数。赤ちゃんを実家に預け、釜山から駆け付けてくれたスタッフもありました。



観光は、エステやプール、遊園地、観劇など利用者ごとに楽しみました。大きなトラブルもなく、無事帰国。身体の疲れも心地よく感じられた初の海外旅行でした！

韓国・福祉フェアに出展

韓国最大規模の福祉フェア「SENDEX2010」に「特定非営利活動法人W・I・N・G - 路をはこぶ」がブース出展。スタッフ3名が訪韓し、「国際交流研修プログラム」をPRしてきました(2010年8月26～28日)。

海外からの見学者が1～2時間の施設見学を繰り返すだけの研修ではなく、じっくりと腰を落ち着け、重症心身障害者に直接関係しながら、日本の福祉を学ぶことのできる研修プログラム「パラム・クム」(風・夢)を作成しました。韓国語のパンフレットを用意して出展。介護用ベッドなど企業による福祉用品の紹介が多いなか、直接障害者を支援する法人の研修プログラムの出展は、参加者の注目を多めに集めました。既に韓国の大学からの打診もあり、今後具体的な受け入れについて交渉を行います。



ご継続ありがとうございました！ 会員継続の皆さん。敬称略

09年度 朴時夫 南部信子 吉田肇 山下淑子 谷川一義・ふみ 山之内春子 光安寿三郎 岡田満喜子 笹田智佳子 大井知子 天野真紀子 高外富榮 今宿幸男 五味侑子 岡本潤和 根田由美子 三野雅弘 山口宗一 吉岡建設(株)・山本裕信 伊藤真美 橋田国身 石田淑子 菅洋子 田代裕子 藤本浩輔 夏川町子 伊藤紘 伊藤佳代 石田康子 吉田佳代 吉田千代子 吉田醇一 石原郁子 筑紫敏子 丹羽幸子 井狩恵子 迎和明 八木敏子 平田清子 工藤ひとみ 岩田昌代 中南美千子 西弘太 米丘幸穂 迎千咲子 田中保治 秋田雅伸 石川典子 木戸京子 羽白育子 金澤真理子 南部由加里 小澤文恵 三井忠 荒木眞一 清水洋子 加藤孝子 青木フミ 米津節子 澤村智恵子 神童美代子 橋田奈穂 辻優 阪下由記子 (有)眞鍋工作所 眞鍋秀和 堅田順一 石田豪 尾谷富美子 尾谷文子 桑原雅代 西村英八郎 小林久子 泉谷美千子 岡田啓子 松本賢志 齋藤真弓 三和宏行

10年度 三井忠 田中光代 匿名希望(1名) 山地はるみ 有尾克ひこ 有尾かほる 玉里光一 厨達夫 山川瑠美 安藤まゆみ 堀政治 石田公德 飯野裕子 浅井美和 鈴木アリサ 平井毅 山崎圭三 山崎陽子 山崎正則 北徳太郎 井浪克己 藤永淳二 藤永芳子 古田幸代 鈴木信哉 遠田容子 八木秀雄 平田雅美 平田美子 大槻英夫 堀本京子 朝倉裕子 西野茂 榊原万友文 片山トキエ 今中正己 谷川泰治 三宝院/川瀬良禅 南部譲二 万代義彦 山本敏行 長谷川幸子 山地雄平 大宮景子 岡田和子 畑まみ 伊藤康夫 小西頼子 木村朋毅 山城喜美子 細野精一ノ瀬さよ子 野田比奈 有岡有子 中西孝子 松川道子 森下浩次 禅定みどり 殖栗美和子 葛川香澄 葛川久美子 藤田和彦 中東妙子 (有)ニフコ 中恵美子 前川裕子 奥野温子 片岡義治 匿名希望(1名) 富田俊哉 浦野将人 山中富美男 永和信用金庫天下茶屋支店 田端悦子 太田景子 福島和子 辻優 常松清吉 田邊佐千子 福田正人 福田純二 福田六夫 宮部秀和 宮部智勢子 井本慶子 東田幸雄 池田峻 橋田龍志 真田政稔 斎藤雅子 筒井恵美子 藪内資子 上野能里子 西川美幸 井浪洋夫 小西孝子 山田正雄 鈴木友治 木村隆克 小林裕子 森真理子 山中和男 大槻文恵 清水洋子 村山真知子 平井義丸 岸桂子 有尾祐彦 有尾則彦 村山龍一郎 村山繁樹 小林一三 小林すづ 森公子 遠田至 遠田順子 廣本三枝子 廣本雅也 荒木節子 開村信雄 山口留美子 山崎康子 安田由美子 山口敦子 伊藤詩織 吉見基子 山之内増男 高畑弘之 岩本和美 原田百合子 辻優 勝山裕子 田中貞子 長沼奈緒子 原田進 宮本恭子 河野良子 大川美代子 堀田治美 小川陽清 内間洋子 沖村諭孝 前堂則子 井木真知 乃一知子 梅本哲男 西川明子 西田フミ子 森江行雄 田辺隆子 親泊太助 神崎修 岡部泰丈 山成嘉代子 西弘太 岡崎正子 中山茂 岡カネ子 宮本謹 瀧山恭子 原田啓司 双葉法律事務所 梁英子 高橋満穂 三島隆一郎 高井靖明 森下美津子 大浦登喜子 永野明秀 中橋弘晃 谷彦範 黒瀬紀久子 秋田正信 南里泰博 武居友子 橋田有造 高野郁子 清家久美子 佐藤美也子 松井延子 小野幸子 牧迫民子 (有)ウェルビー 鶴田久美 松井チエミ 林均 辻優 西山廣司 神童俊雄 矢野光子 あおぞら司法書士法務総合事務所 山内鉄夫 迫田吉生 玉置敦子 仲谷アヤ子 高津由之 井浪淳夫 岩藤博明 金本京子 原田浩 吉本弘 森葉子 神田美穂 高外富榮 篠田富子 出野美佐子 高野繁 北川仁美 山口節郎 柳川敏美 本多恵津子

梅本庸子 武内要三 富田恵美子 魚井昭彦 佐藤裕英 佐藤温子 伊藤真美 神崎真理子 前畑常男 三井由利子 小角隆 古野宗代子 亀井浩司 喜多庸雄 進藤多代 橋田恵美子 齊藤治吉村英子 福井一弘 福井博子 中川直子 玉城初子 田辺美加 木村時計店 木村朋毅 丸山有子 勝山欣哉 小泉秀子 太田徳子 光野浜子 戸田栄 辻優 仲地弘 下市和生 奥津矩男 太田勅正 瀬戸恵利子 島森きみ子 貫野旬子 酒井伸子 楠本恵亮 利川慶子 利川竜男 武内計二 佐藤由希 天野真紀子 岩田昌代 岩戸美津江 萱野加津夫 (株)クラハラ 山中美也子 溝渕啓子 細野精 竹本歯科医院 竹本博文 有尾雪江 前垣光義 前垣朱実 前垣信也 中島裕文 岩本和子 朴時夫 太田晴美 嶋恭加 伊藤紘 伊藤佳代 橋田友美 小佐田茂博 長田弘子 津田有子 加藤ヨ一セツ(株) 加藤世里子 南部信子 真鍋光子 吉岡建設 山本裕信 田中弘子

ご支援よろしく申し上げます！ 新会員の皆さん。

09年度渡辺祐子 原田友梨佳 10年度榊原信之 歌門善一 中東三和子 大城ケイコ ハートフルライフ交通(株) 上田久子 増田洋子

ご寄付・寄贈いただきました！

陳任徹 太田貴久 田中大介 遠田容子 (有)カエル - 吉岡建設 匿名希望 羽田崇子 橋田国身 橋田恵美子 奥津矩男 菅さんを通じて寄付して下さった方々

退会。長年ありがとうございました！

高外茂 藪内朝吉 遠田容子 山口節郎 西村敏子 篠田貴美夫 岩本清

【後援会よびかけ人】 犬伏一人(読売新聞記者) 羽柴修(弁護士)
富田佳志(朝日新聞記者) 小西威史(月刊「ソトコト」編集部) 堀内正美(俳優)
増田耕一(毎日新聞新規事業開発室長) 松本賢志(時事通信記者)
山沖之彦(プロ野球解説者) 梁英子(ヤン・ヨンジャ 弁護士)

「日本、中国、インド
が手を組めば、世界は我々
のものだ」とは四半世紀も
前、放浪先で聞いた話。当
時は、そんなこともあるか
な。なんて笑ったものだ
が、今は笑えず。逆に手を
組まねば日本はなくなる
…という恐怖心すら。
日本経済が縮小する
なか、福祉充実に財源は
必要。福祉に従事するもの
は、その克服に挑戦する気
概はあるでしょうか。私企
業は規模に関わらず、自ら
の存亡をかけて海外に活
路を求めています。
福祉は国の責務とい
うのは、国があつてこそ。
お金がすべてではないに
しろ、“配分”の主張だけ
では…。重い障害を持つ
方々への支援を維持・継
続・発展させる術は、私た
ちの意志のなかにあるの
でしょう。

発行：「夢飛行・モモの家・ゆうのゆう・機関車」後援会 郵便振替口座 00900 4 157766

E-mail info@yourwing.org 年会費 1口3000円(個人) 10000円(団体)

〒557 0042 大阪市西成区岸里東1の5の25

「特定非営利活動法人W・I・N・G-路をはこぶ」内 06-6656-1280

法人ホームページ <http://www.yourwing.org>

後援会ホームページ <http://www.h7.dion.ne.jp/~yumekoi> (夢来い)